

# 訪問看護ステーション

## 連絡協議会だより

### 第5号

発行年月 2003年3月

発行所 岡山県訪問看護ステーション  
連絡協議会

〒700-0805 岡山市兵団4-31  
TEL086-235-0225

発行責任者 若林 敏子

### 副会長挨拶

岡山県訪問看護ステーション連絡協議会  
副会長 則清 操

訪問看護ステーションの皆様、こんにちは。日は地域で生活されている方々の訪問看護活動に精力的にご活躍され、多忙な毎日を送られている事にまずもって感謝と敬意を表します。

公的介護保険制度が始まって3年が経過し、今年度は見直しの年になりました。行政担当者からは「細かな問題はあったものの大きな混乱もなく、スムーズな制度実施や運営が出来ている」という評価が大半を占めています。が、実践現場の感覚では大きな隔たりがあるように感じられます。訪問看護ステーションで言えば居宅介護支援事業所との兼務による多忙、経営的困難、最も重要である利用者本位のサービス計画ができないなど多くの課題を抱えていると思われる。今年度の見直しでも、厚生労働省の政策誘導では在宅重視の意向をさらに強く打ち出しています。現実には介護保険

制度が始まる前より現在の方が、施設入所待機者が増加しており、在宅看護・介護の困難さがあらためて浮き彫りにされていると思われます。しかし、訪問看護の利用は要介護度の高い方や医療依存度の高い方では徐々に多くなり、地域の訪問看護に対する期待は大きく、ニーズにこたえる責任は重大であります。また「看護師による静脈注射は医師の指示に基づく診療の補助行為の範疇として取り扱う」という通知により、業務範囲の拡大が訪問看護の現場でも責任重大であると考えます。在宅生活を支援する「要」として、横のつながりを持つつつ我々訪問看護ステーションが活躍しなければなりません。課題は多く、困難もありますが一人一人が役割を持ち、ストレス発散を上手に行い、心身ともに健康を保ちながら日々頑張つて参りましょう。これからもよろしくお願いたします。

## 新設のステーション紹介

### 訪問看護ステーション

#### 「ビートウォール」

佐竹 良一

老人、精神領域の体験を数少精鋭で、県南を中心に活動している訪問看護ステーション「ビートウォール」は平成14年6月に開設した、精神領域を活動の中心に据えた、独立型のステーションです。ビートウォール（壁を打ち）には病気の壁を打ち破り健康を取り戻して欲しいという願いがこめられています。

当ステーションの特徴は、先述の通り、精神領域を中心にした活動と、医療と地域とをより密接に関係させ試みとして、ギヤラリーが併設されていることです。

日々は、まさに精神病院に入院の瀬戸際の人、身体合併症を抱える人、長期入院から退院した人、人間関係が結ばず孤立している人、様々な人々が当たり前の日常生活が送れるように考える日々です。掃除を共にする事であったり、映画を共に鑑賞することであったり、日々は予測がつかないことの連続です。利用者の方々は周囲の人に知られず車両も訪問看護とわからない車両でそつと訪問することを望みます。それだけ、当たり前前の日常生活が難しい現実があるのだからと感じています。



ギヤラリーは有名作家の作品展や、障害を持つ人とクリエイターのコラボレーション展など不定期ながら運営しています。

独立型を持つ困難もありますが、利用者の方々を支えられ、ただいま発展中です。

(〒700-0805 岡山市福浜町12-25)

### 訪問看護ステーション「メッセージ」

恵守ひとみ

訪問看護ステーション「メッセージ」は、平成14年5月1日に岡山市田中に開設された、まだまだ走り出したばかりのステーションです。看護スタッフ3名という小規模な事業所ではありますが、「お一人お一人に丁寧な、日々ご利用の方との対話メッセージ」を大切にしながら看護の提供に努めております。

また、当ステーションは数少ない株式会社の設立であり、会社の特徴（施設運営）からしまして、ケアハウス等への訪問看護も幾分含まれています。

ご利用の方々には疾病と障害、そして加齢という現実の中で、それぞれの「家」という一番安心できる場所での生活がより満足のいくものとなるように、生活と結びついた看護を提供していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いたします。

(〒700-0805 岡山市田中154-1105)

### 「おちあい訪問看護ステーション」

辻 澄恵

町と過疎化の進む山村が同居する落合町に平成14年6月1日に、おちあい訪問看護ステーションを開設いたしました。落合町は、医療や福祉機関に比較的恵まれています。高齢化率29.7%と高く、また単身・高齢世帯が全世帯の約2割を占めています。今は雪景色を見ながら車を走らせていますが、春は桜で満喫でき小鳥のさえずりを聞くこともできます。

私たちは、利用者の方がこの長閑な住みなれた地域でいつまでも過ごしていただけるように10年有余の医療機関での訪問看護の経験を生かし温かく、思いやりの心を持って看護していきたいと思っています。そして、地域の方々から気軽に声をかけていただける関係作りをめざし、また、私たちが必要とされる時に直ちに利用者のもとへ駆けつけることができるように、地域の受け皿として頑張っていきたいと思っております。

(〒719-3144 真庭郡落合町垂水251)

# ステーションからの リレーだより

## 今年のテーマは「心」かな

訪問看護ステーション わけ 津田和代

看護は心、心が深くなるごとにその人の看護も深くなる。最近、よりそう思うようになりました。そう思うようになってしきりに思い出される一人の看護師さんがいます。

まだ看護学生だった頃、病棟実習に出ては白衣姿の現実がっかりしていたところその女性と出会いました。管理職でありながら全く控え目で、それでいて大きな存在があり、何とも言えない安心をいつももたらっていました。他の多くの看護師さんとは違う何かがありました。この女性からの影響は計り知れません。この人こそは本物であったと今でも確信しています。

この看護師さんを思う時、いつも蓮の花のイメージが湧いてきます。まさに白い蓮のような人でした。清楚で凛々としてます。さて振り返って自分はどうな人間でしょう。出会いを心の糧として、看護を通じて心を深めることができれば、と思っております。

## より利用者のために

湯原町訪問看護ステーション すずらん 原田知葉乃

私たちは、その人らしく生きる。ことへの支援を motto に頑張っています。一年一年、医療依存度の高い人、ターミナル期の人を含めて利用者が増えつつあり、嬉しいことですが、悩むことも多々あります。

今年度は、併設病院看護部が取り組んだ時間管理術の研修に参加させてもらいました。解っているつもりでいた自分に気付いたとき、涙も流れましたがスタートラインに立った時のような、すがすがしい気持ちも味わえました。

私は、

- (1)看護計画100%の立案
- (2)カンファレンスの実施
- (3)ケアマネジャーとのコミュニケーション
- (4)スタッフの年間教育計画
- (5)介護者への介護手引き書作成

に取り組み、責任を持った訪問看護サービスの提供をしていこうと努力しています。皆様も、いろいろな取り組みをされていくことと思います。ぜひ、アドバイスをください。  
【電話08667-62-2233】

# 訪問看護ステーション開設10周年を迎えて

## 岡山訪問看護ステーション看護協会

菅崎仁美

当ステーションは、平成14年12月に創立10周年を迎えました。創立から関わってこられたお二人の管理者は、訪問看護の基盤整備を行いつつ看護の質を問いつつ看護師一人一人の資質を高めてこられ、利用者ご本人や介護者のニーズの充足を図られました。また業務体制の整備も助めてこられたスタッフの待遇も向上してきました。私は平成11年にそれらを引継ぎ管理者としての責任を痛感しながら日々の業務を行ってまいりました。安心・信頼・真心を motto に安心して在宅療養ができるよう、また訪問看護を幅広く理解していただくよう、地域、他機関の方々に紹介してきました。

介護保険の導入により看護、介護活動が地域住民に

とって身近なサービスとして中核となったと同時に看護と介護の業務が重なり合ってきました。そして業務内容も見直されてきました。看護の利点を再認識し必要な看護を必要に応じて提供できるよう医師、ケアマネジャーと連携をとることが重要です。また痴呆ケアやターミナルケアの充足も急がれる中、看護に求められる役割と期待は大きくなっています。看護体制の整備を行うと同時に、一人一人がその責任を自覚し期待に応えられるよう努力していきたく思います。

さらに今後10年間、皆様に認めていただける訪問看護をめざしステーションの活性化を行っていきたく思います。

## ハイセイ訪問看護ステーション

山本和恵

当ステーションは、救急から在宅までという医療法人全仁会の理念に基づき、在宅支援システムの一部を担う事業所として、平成4年10月に開設されました。10年間に倉敷駅前ビルから、平成病院に隣接して新設された在宅総合ケアセンターに事業所が移り、より地域に根づいた事業所を目指して、山手、船穂、八軒屋のステーションが独立し、4つのステーションに拡大されました。

今年介護保険制度見直しの年でもあり、訪問看護は利用の伸び悩みを耳にしますが、訪問先で、「皆さんが来てくれるから在宅できた。」「制度が出来て良かった。」という声を聞く様になりました。うれしさと共に、私達一人一人の評価が訪問看護、介護保険制度の評価につながる事を認識し、責務の大きさを改めて感じました。

12名のスタッフのほとんどが、私も含め訪問看護歴3〜5年程で、経験不足から、まだまだ力不足を感じています。今後より一層質の高い訪問看護、リハビリを提供できる様全員で努力してゆきたいと思っております。

## 編集後記

## 「事務局より」

いつも岡山県訪問看護ステーション連絡協議会活動にご協力を頂き有難うございます。殊に、当協議会の研修会運営につきましては順番にご多忙な時間をご協力いただき感謝いたしております。

平成15年度も引き続き、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

岡山県訪問看護ステーション連絡協議会 事務局

連絡協議会だより第5号をお送りいたします。広報委員の役割として、①ステーションを利用者に知ってもらう。そのために顧客である支援センター、ソーシャルワーカー等に「あなたのまちの訪問看護ステーション」やさしい笑顔の帽子をかぶった女性が表紙のパンフレットを100部発送しました。現在、ホームページ開設の準備をしています。

②ステーションのスタッフ間の交流。お互い顔を会わせる機会がありませんが約600人がステーションで活躍していると思えます。喜びや悩みを共有できれば、また、学びや気づきにこの広報誌を活用していただければと思っております。



まずは、読んでください。そして、意見を下さい。皆さんからのご意見をお待ちしています。桜の下で、美味しいものを食べて、おもしろい背伸びでもして、心も体もリフレッシュしてお互い頑張りましょう。

広報委員 一同